

The background features several overlapping circles in various shades of blue and green, rendered in a watercolor style. There are also white splatters and fine lines scattered across the circles, giving a sense of movement and texture.

みずつき

「水」がテーマのアンソロジー

14

mizutsuki 2026

みずつき

「水」がテーマのアンソロジー

14

mizutsuki 2026

ご参加
いただいた
みなさん (五十音順)

梅ふうむ	@umefum	小泉夜雨	@kozumi_yau
泳二	@Eis himada	棹流	@saoru_xyz
枝豆みどり	@edaname_midori	坂口栞	
河鹿	@kazika0124	桜乃ノリ	@w59f8NwfuJkq3
梶原一人	@MrDekopin	Solan	@wadachi_plus
歌島益	@Simi1990	Sand Pawns	@alen_ies
片羽雲雀	@anjy92091554	東雲航	@sinome_tanka
瀬井井戸	@katonjioe	澁谷幸司	@kainohi
かわぐち		西鏡	@xi_zhen_ivUT
北乃銀猫	@Silbernekatz_e	ソウシ	@sixiaouT88MBIgp
北谷雪	@kitaya_misomiso	台風のめ	@ima_kaihi
橘高なつめ	@coconutkikko	多香子	
桐野黎	@Tower11710	高宮じびり	@takaniya_digiko
九条律志	@Ritu1046	tankalife	@tankalife31
ころな	@cocona_nicochan	千原ころは	@kohagi_tw
梅木みなも	@omotemizu	宮嶋ころく	@miyazima_izq
非常ロドント	@hiyougouchi_dot	みんなん	@tt9X4RWf5RNT
笛地静恵	@Xnc6rhzyfZgwg	村田一広	@mucc12022
福山桃歌	@momoka_fukuyama	山野ゆかり	@natsutani_clara
布施亜季子	@aco_kojin	由香	@ic_yukashi_mahy
古井 朔	@saku_furui	雪村詩葉	@favotankasiyoh
古井久茂	@fuidom	ヨシタジャック	@jacksbeans2
本条恵	@singles_cafe	渡部敦則	@nor_anzu_1
牧角うら	@mkdoki		
三浦なつ	@natsumiuraok		
深影コトハ	@cotoha_mikage		
水上歌眠	@kamin_plz		
南の島	@_nrkmm		
みはづひたき	@osoyuu		
宮下一志	@lama_miyashita		

つくだとしお	@toto_books	つくだとしお	@toto_books
低体温で	@tetatondo	低体温で	@tetatondo
十浦 圭	@urato_kei	十浦 圭	@urato_kei
このもつかへ	@tonomozukasa	このもつかへ	@tonomozukasa
中村成志	@nakam8	中村成志	@nakam8
ナタカ	@utanataka	ナタカ	@utanataka
natsuko	@nuts722	natsuko	@nuts722
七澤銀河	@ginga_Nanasawa	七澤銀河	@ginga_Nanasawa
榎原もか	@kiharaneko	榎原もか	@kiharaneko
根無 ネム	@singshortsong	根無 ネム	@singshortsong
灰島りん	@hajijima_rinko	灰島りん	@hajijima_rinko
羽島かよ子	@kayoko_31	羽島かよ子	@kayoko_31
薄荷。	@aieohineco	薄荷。	@aieohineco
はしきもち	@moshimoshi_moni	はしきもち	@moshimoshi_moni
はるかぜ	@spring_bird_gr	はるかぜ	@spring_bird_gr

75名

たくさんのご参加
ありがとうございます！

虹の果て

雨粒をはじく音からあふれ出す明日に向かう鮮やかな朝
指先をつたっていくねことばより大事だったのさよならひとつ
しゃぼん玉弾けるあいだ歌うから虹ができるまで僕を呼んで
どこのこねこが跳ねたんだ水たまり雫がころりころまるまる
まだ君を引き留めている小糠雨、幕を開けてももういいだろう
七色の傘をくるくる踊りだす果てにはきつと夢があるんだ

明里水也 @m_riya_o

ひかる噴水

炭酸水を炭酸水で割るやうにあかるさばかり飲みこんでゐる
逆上がりできないまま生きてゐるわたしのためにひかる噴水
いちめんの水田にうつるゆふぐれのなかを電車は走り抜けたり
淋巴とふ流れをしんと閉ぢこめてわたくしひとり川沿ひをゆく
みづうみに沈めたままのさみしさにときどき会ひにゆくための旅
ひとりどひとり 雨の匂ひのあぢさるのみならぶ道をゆつくり歩く

有村桔梗 @chattenoire_k

会いたかった、ような気がする

われわれは生前だから枯野ゆくときは水たまりに気をつけて
空き缶の代わりのペットボトル蹴るデコッデコッと転がるばかり
草花の屍骸のうえをゆくときにわたしは鞆だけが重たい
月のほうへ風は芒を向かわせる 【踏切の音】 ここからは死後
見えるもの見えないものは変わるから 寒暄の貯水池に反射光
生きている人しか死なない、死ねなくて、別れることももうできないな

牛隆佑 @ushiyu31

エトピリカ

一滴の無色無臭の水滴がまぶたを盗む その繰り返し
見えるたび地球のことを想い出す雨に霞んでいるガスタンク
落ちている軍手が水を請うようでペットボトルの水を注いだ
真夜中はピアノの脚に耳をつけ地下水脈の音を感じる
「六割は水」といっても真水ではないとわかってちよつとがっかり
エトピリカおそろしいほど透明な海を気泡で満たしておくれ

宇祖田都子 @shimsyutu2020

Spook out

みずうみに春花火 遠い空のこと 知らなくていい爆撃の音
Spookout なにが起きたかわからないままで終われてそれならそれで
琵琶湖には神様がいる 怖くない痛くないようにお願いします
いのちって生きているから許される いのちとごみの境目はどこ
どこまでもこのまま沈みたい探さないで誰にも見られたくない
瑠璃色の夜明け波打ち際に虫 打ち上げられた魚の死骸

井倉りつ @uta_liz

空とレインブーツ

水たまりに隠れた空を踏んじやったレインブーツがまだ乾かない
自転車のかごで揺れてる炭酸水夏の光を乱反射して
側溝に濡れた百円自販機のコカ・コーラが売り切れている
くらげには出会いも別れもないのだろう波に行方を決めさせていて
水桶に沈める野菜浮き上がるトマトはみんな未熟なトマト
新しいほくろに気づく一日の終わりにぬるい湯船に浸かり

宇井モナミ @kiousan

言ノ葉の祈り

夢浮かぶ水底深く泡言葉 祈りは水面高く空まで
海深く隠せよ隠せ偽りもここに在りしは狭間なりけり
かくばかり声ならぬ 波掬いとり 言の葉の影耳そばだてて
濡れた袖ぬぐった涙痕 見つめるは我が足跡か未踏の果てか
言の葉に浮かべ揺蕩う想ひ込め幸あらぬこと願うのみ誰に届けと
傘越しに見上げる空よ嘘まこと透けてしまえば抱きとめるのに

うみ @x0uminokoroox

例えばひとつのみずいろ

水波みのお礼一拍遅れきて初夏に桜花を見たような顔
掬われて水合わせもなく金魚鉢なぜか君とは息がしやすい
夏空のかんしゃく浴びて濡れ髪で「水も滴る？」自分で言うな
ハンカチの水玉模様いつからかトランクスと並べて干され
満ちる日も涸れて傷口ひらく日も諦めはしない私の海を
みずいろは流れわかれてあわさつてどりどりになる 生きて、生きて

梅ふふむ @umefufum

泪雨

街角の足音ばかり聞きながら遠いあなたを待つ泪雨
会った日も別れた夜も雨だった どこにでもある言葉ばっかり
まだそんな歌やってるの まだこんな歌やってるよ たぶん明日も
先生と呼ぶよな人の面影を知らないままでマイクを握る
もらったのは少しの拍手と少しのお金ひとり帰り道に傘をさす
駅裏のカラオケバーのポスターのサインを滲ませる泪雨

泳一 @Eishimada

cobalt

わたくしのみづうみのように生きていた猫の瞳のなかの天目
降るまえに雨の匂いがあるように悲しみも少し香るといいよ
Having a moment 好きな人とコバルトの青に浸かる、肩まで
雨の夜は彷徨う海月に出逢いますか？つては魂だったものです
海に行けばしばらく海が恋しくてあなたに逢えばずっと寂しい
抽斗をあければいちめん海でした潮風の吹く六月でした

枝豆みどり @edaname_midori

霖雨齋ながめいみ

逃げ水のあなたは追えば追うほどに惹かれてしまう嫌な人です
山の端へにわか湧きたつ雨雲の、とおいあなたへあくがれている
蘭糸の白い夜雨に包まれて、あなたのいない空は真っ暗
雨つつみ あなたを想うこともつみかさねたならば叶うでしょうか
ぬかるみのようなあなたの優しさが憎らしくって逃れられない
つややかな愁いを帯びて雨上がる。むせ返るほどあなたが好きだ

歌島孟 @Sini1990

水中花

奥底に溜まる涙みを吸いあげて咲かせた花の吸り泣き
またね、って別れでしたか 雨の日のハイドランジアくすんだ緑
深めてく怖さと愉快かきませたマドラーの先一滴の罪
黒ずんだ腹の奥から溢れ出し飲み込まれてく郭公が鳴く
ぶくぶくと吐く泡に怪気の混じる鱗剥がれて尾をふる金魚
一杯の水で覚ました目にうつる化粧のくずれた天上蓮

片羽雲雀 @anju2091554

もつと畏く大きいもの

なんにでも効くけ、と祖母に持たされた檸檬水飲むどうにかきつと
冷水機ベダルを踏んだ横顔が正しい白の角度に止まる
霽降る降る託された気がしたら上手く固めてうさぎにさせて
ハビタブルゾーン様宛 田水張る空食べ稲は育ち伸びます
伊勢湾の波は鯨のハミングで大西洋は大西洋の
龍神の足跡がその水溜り光る沈んだ鱗一枚

河鹿 @kazika0124

れん

すきとおりつつしつしつしつしまれるうつわのごとくだきいるらん
ふれたればおされふくらみしつみこみまたふくらみてなみはうまるる
ひろがらんまるくひろがりまじわらんはねてうちけしかさなりあいて
はなれゆくとおくはてまではなれゆきぶつかりきてぶつからずきえ
すきとおりまたうつしだししまれるかがみのごとくまちつづけおり
とびゆるるまたぐふれずにのぞきこむひとひらのはがおちてゆるめき

梶原一人 @MrDekopin

なにもない町

グランデの上はペンティーどん突き喫茶店での職員会議
介護士の罵倒語はHow are you?でスルーし次の議題へ進む
ミルキングは虐待ですという真の気づきにどんな利点があるの
山裾に五月の風がしけ込んで来なくなった新人は二人
どん付きの喫茶店からぞろぞろと古参兵のケアワーカーたちが
この町は特になんにもない町でじやったら暮らしやすいってこと

涸れ井戸 @kaionjiioe

寄り道

相槌も忘れちゃうほどしゅわしゅわが鼻を刺しくるレモンスカッシュ
サンダル足の家が家へと向かわない夕日は汗に吸われちゃうから
背骨まで海はわたしをおぼえて左にすこし傾けて抱く
ためいきを硝子に生けて少しだけ零れた水は空を映しぬ
太陽の文字が浮かんでくる肌は慈雨のようななるトラネキサム酸
ゆつくりと海が傾く音がする耳に雫は閉じ込められて

かわぐち

みずのひとこせ

三月の雪解け水は春の声冬靴のまま泥濘を踏む
空を見る水滴にやや初夏の色含ませ温い恵みが来たる
揺れている裾を滴る水滴はほんの少しの真夏のだるさ
木々揺らす風が連れてる湿り気がやがて色付く葉を囁かす
薄氷割れた下には雪空が映るそろそろ冬の仕度を
しばらくは水とともに春風を待つ靴音をきゅつきゅと鳴らす

氷乃銀猫 @Silberkatz_e

水無月の余話

朝を待つ船旅のよう雨降りのボックス席の途方のなさは
盗まれた先で盗まれてあの傘はバトンのように海へ着くかも
ではそれを教訓と思う？霧雨に傘を差さない国のはなしを？
ペンギンで説明がつく飛ぶ夢と泳ぐ夢が似ているわけは
許すとき諦めてもいる氷塊にひびを入れつつ満ちるコーヒー
クレマチスの花はびんぼけで君の手の如雨露の雫ばかりがきれい

氷谷雪 @kitaya_nisomiso

川から海へ

それぞれの流れの果てにまた出会う何も無かったような顔して
立ち止まる橋の上から見る川は礼拝堂のような静けさ
馬鹿だから最初の雨の一粒に気が付くけれど誰にも言わず
恋人をたやすく忘れゆく川も匂いが変わる夏になったら
駅を出てひと呼吸おくゆつくりと人の渦巻く交差点へと
休日ではテラスで飲もう潮騒とカモメの声に包まれながら

橋高なつめ @coconukiko

無垢だけを

無垢だけを玩具のように散らばらせ笑う君へと突き刺さる雨
僕の輪郭の中だけに降る雨 傘をささずに行くのはだあれ
燃える水濡れた炎が交錯し描き出される夢のあとさき
言の葉のざわめく森のまんなかの静かな池のそばで会えたら
そっと君のレゾンデートルのゆらぎに小さな舟を泛かべる夕べ
木洩れ日 せせらぎ 囁り 君をふちどるべきすべて連れて 会いたい

桐野黎 @Tower1710

名もなき海へ

みずの声夜明けの窓に露となりいまだ名もなき海を思えり
雨の街ビルの谷間に川は伏し靴音のみが海へ降りゆく
てのひらにすくえば水は古き空母の胎内揺らめける音
稀の雨砂漠の種を宴へと刹那の恋と長き眠りに
砂のうえ芽吹ける水は唇の言えぬままなるさよならを飲む
やがて水雲へと還り名も消えてひとつの海に眠りひらけり

九条律志 @Ritu1046

みずのひかり

水の中息できないね僕たちは人魚になって生きていきたいの
泡の中溶けてなくなる感情と水に流れる感情とだけ
洗濯の水の音とか聞いていると洗濯物になった気分分
水滴が模様を描くその狭間なんだか君がニコツとしてて
星の音ガラスのコップに閉じ込めて水道水を注いで混ざり
傘の中2人密かに共有し雨が止んだの気づく間もなく

1)1)な @cocona_nicochan

前夜

雨の日だけに甦る霊たちをわたしは記憶だと思ひ込む
難しいことは考えない代わり黙っていて、何も味のないスープ
あなたは井戸を、あなたは春の大嵐を、あなたはレイトショーを憎んで
まるですべてが起こってしまったかのような夜サイレンをただきいている
そうまでして欲しかったのは幻想と涙でできた川なのでしょう
笑っていたのかもしれないこの部屋が水に沈んだ夢をみた、のに

小泉夜雨 @kozumi_Yau

同じみずうみの中で

パタパタと耳に届いた雨音に外の世界へ手招きされて
雨の日に空に向き咲くアンブレラ色とりどりの魔法に満ちて
雨はそう、思い出多く奪われてペトリコールに拐かされる
雨上がりに天使の梯子舞い降りて光差し込む心の庵
ポコポコリ湖面に向かう命の輪ゆつくり浮上ただいま現世
みんなしてハンデをどこか背負ってる同じみずうみ愛しき地球

棹流 @saoru_xyz

氷の世界

私以外全てが水で私だけ氷の世界そういう世界
流れ方わからないまま蒸発し消えてしまった徒夢の跡
ふつつつと喜怒哀楽は沸騰し鳴り止まないままくるくる回る
凍ったらかさが増えるね膨らんだ宇宙の果てのような後悔
へりに立ち水面を蹴れどもそこにある醜い憎いゆがんだ像は
サイダーになりたい雲をかきわけて辿り着いたら海に降りたい

坂口 菜

もうい火

にぎやかに熊蜂のきて週末の天気予報を睡蓮に告ぐ
まばらなる雨のにおいに相方をたしかめている水無月の傘
もらい火のような不安 青梅のたわわなるころ矜持にかわる
「サボテンの透明感」をくゆらせる梅雨入りしたる部屋の夜風に
いまならばとどめおきたい誕生日 年輪ひとつひそかににおいて
さわやかな目覚めをうたう朝顔の浴衣をひいて眠りにおちる

桜さくく @wjs9f8NwfuJlVq3

水道水

山中のひとしづくから流れ着く水道水は塩素のかおり
公園のトイレを流す水たちの進路希望はヒーローだった
コーヒーで茶色く染まる君を見て故郷の母は何を想うか
真夏日に体を冷やす水滴は乱反射する光のよよい
ひたすらにビニールプールを埋め尽くすこの透明は羽をあたえる
雨は降り等しく流す側溝に、僕の憂いも君の笑顔も

東雲 航 @sinonome_tanka

或る雨の日の初歌と返歌

鳩啼けば小雨の粒のひとつまで胸の奥処へ落つる夕刻
傘閉ちる指に伝ひし雨粒に鳩のかなしみ混じりあひたり
小雨へと同調したる鳩のこゑ誰のものともつかぬ寂しさ
濡れ羽根を震はす鳩の啼くたびに見舞ひの刻の迫り来たりて
雨煙る硝子を淡く濡らしつつ鳩の啼く刻の昏れゆきにけり
降り止まぬ雨の匂ひを聞きながら消ゆる灯のもと指を探れり

澁谷 幸司 @kainohi

おはようエンドリケリー

肺呼吸覚える前の海のこと母って呼んだ Bath と呼んだ
エトピリカ不惑四十を前にして海上を往けと示すカーナビ
カップ麺お湯入れてから3分間私起きるまでの25分
逆引きの Squall の項へあなたとは驟雨、突如私に降る雨
もし海が全部の星に生まれたらこのジレンマはウニのものかも
お風呂とか全部目覚めた後にして連帯保証人の印を押す

Salan @wadachi_plus

寺のこゝとく深く

MidnightMioğaröşormurMiddle-earth みんな拒絶の水底だった
雨の日は指からふらす水のこともさあざあの音に紛れてしまう
藍色のコップが割れる液体の河に光が散らばっている
坂道のイスの都の花売りがマッチの代わりに燃やしている花
自力では泣けない石像たちのためガスを灯そう腐食雨を待とう
アトランティス、レムリア、ムー、海水は後悔によって水量が決まる

Sand Pawns @alen_lires

桜桃忌

気の遠くなるような時をあびてそう、飴色の梁の真下の席は
この街の水がよいからこの酒が飲める、と白髪のひとはしづくに
深い海の使いのような雉羽太の鞆やかな身に犬歯をあてる
桜桃忌 わたしは誰にゆるされて生まれただろう、種を吐き出す
何処に傘を忘れたのかを忘れてるように世界と折りあえたなら
雨の来る気配が風に交じりだし遠くで雲が加速している

西鎮 @xi_zhen_jvut

そして水無月を食う

みなづきの響きを甘く懐かしむ梅雨前線から遠い町
ないのなら作るほかなく真四角の器をたんと湿らせている
上新粉ふくらんでゆく雨雲がふくらんでゆく水無月になる
煮小豆をのせつつ思う遠ざかる傘の水玉模様のことを
四角から三角ふたつ切り出してもとには戻らない美しさ
響き、色、手ざわり、味が違っても雨は雨また水無月を食う

ソウシ @sixiaout8BmBlgp

ぬうぬうの空

シャワーより宝石シャラシャラ降り注ぎすり切れてゆく皮膚のまぶしい
イヤフォンに川の流れを示されて人々しんしん交差点ゆく
投げ込んだ石はあまりに小さくてあなたに波紋ひとつ起こらず
はみ出したグロスを肌へ塗り広げぬらぬらのまま空に暴かれる
かじかんだ手を差し出して街をゆく視線はふいに手袋となる
水性の絵の具を重ねつづけければ紫陽花ついに白けて透けた

台風のめ @ina_kaihi

花に水やり

春先の渇水に氣息奄々の哀しい庭先きつと雨降る
水やりはすれども渴きに追い付かず花もころもひたすらつらい
燕去りただ夏の陽にたおれ伏すひと雨待たるる紫陽花の群れ
もつとよという顔をしてパンジーは日曜の庭で水まきを待つ
夕立は豪雨となりて道の上に街を逆さに映して朝やむ
ようやくに息ふき返したる紫陽花の泡粒のような蕾喜ぶ

多香子

すればいいのに

当分は会えないと知っている夜のきみより先に泣き出した空
しかたない しかたないってなんだろう ひとつの傘をひとりですして
水底に沈めた声は腐らない かぼそく暗く泡だけを吐く
ため息はおおきなあぶく おかしいな、こんなにへたくそだった息継ぎ
もういいよ離れていいよ雨上がりいつもよりすこし速い返信
水面にはふれば壊れてしまう空すこしは後悔すればいいのに

千原 一は  @kohagi_tw

命の水 (Aqua Vitae)

升酒のこぼれし皿を垂らし置き命の滴と升に返して
二日酔い寝過ごし昼の冷凍庫 水を片手にウォッカを迎える
ショットガン飲み比べして6杯目チェイサーを置きもう一勝負
パステイスを水と氷で午後3時ペランダ飲みが南仏のごと
パローロを3回まわしゆつくりとこの瞬間のため生きてきた夏
「もういっぱい！」目の据わりたるわれをみて水を差し出す酒店の主

つくだとしお @foto_books

水中探検

みずいろに染められた僕りーんりーんって鳴っている夏
ジエンダーレス水着で濡れる八月に 九月になったらはぶらしを買う
湖のそばで話そう僕たちは本当の姉弟じゃないってさ
蛇口からあふれたす水わたくしのたましいみたいにとまってる
まごころが静かに眠るダム底の底いまからそれに会いにいけます
愛してるって吐くたびに出来る水の泡0からはじまる卵なんだよ

高宮 でぢ  @takamiya_digiko

タイムライン

リポストの増えゆくやうにあまつぶが次第にふかく皮膚を濡らせり
自らを水からみづへ渡しをりもうしばらくは傘を差さずに
くろい雨しろい雨きつとごましほは雨ふる朝にうまれただらう
透きとほる塩らあめんのすうぶから匂ふ静かの海の満潮
「重力をすこし軽めにしたから、やや短めでお願いします」
みつとしてタイムラインは流れつとときをり喉を潤してゐる

tankalife @tankalife31

エラ呼吸で棲みついた

シー陶器骨のようにはなれなくて砂と貝殻が吊ってる
洗濯機間違え入れたイヤフォンが海の音を「接続しました」
閉鎖的神域からの警告は52ヘルツの魂から
海百合の化石が沈み海底で星雲溢れ『願い教えて?』
夜光虫ブラネタリウムの真ん中光る群泳 流れ星たち
病みアカが「クラゲになりたい」言うけど海にはなれず涙を焼いて

低体温  @teitaijondo

くうしみずかがみ

深爪がいつのまに痛くなくなつて 水槽越しに見るような朝
水道のコックが手のひらに刺さる強さで今日を占っている
「雨ですね」「雨ですね」って言い合えばつかのま晴れを殺す共犯者
水筒を忘れてすぐ会議中いまだけ私すこし乾物
陽が落ちて水たまりにも夜が来るちいさな夜を幾つも過ぎる
水滴がおちる速度で祈ってるおやすみ明日もさえない自分

十浦 圭 @urato_kei

ぼとぼと壊れた蛇口を締めあげて手のひらあかくぼとぼとぼと
制服を濡らす冷たいしずくたち傘はあいつとあの子でひとつ
ごくぐくと作るそばからなくなつて違ふコップのあまいスポドリ
ぎらついた目で球を追うぎらついた日差しのせいで汗がまぶしい
しやらしやらと世界をぜんぶ洗ひましよう雨も涙もひとつになるの
風呂上がり想い出を飲む濡れ髪がぼとりぼとりと未練たらしく

このもづかや @tonomozukasa

ST A U B

ごとりと、と生き物のみを閉じ込めて鋳物ホーロー鍋が湯気吹く
まず葉もの実のもの根もの重ねゆきやわらかいと水であること
窓口を終えて六秒胃の腑へとアロマ・レインが今、降っている
野球式投げ方すれば確実に肩がいく鋳物ホーロー鍋は
蒸されるならばまず右腿を極弱火出来れば蕪を敷きつめたのち
なにはともあれ塩と甘味を持っている生とはそういう物体である

中村成志 @nakam8

ラビリンスブルー

噴水はある日突然消えていた 誰かが畳んだ屋台みたいに
海水を閉じ込めたみたいな君の涙に揺れる抜け殻の僕
炭酸の最後の泡が消えたあとまだ水として生きている水
この星の海を見捨てた人々を錆びた眼で見上げるクジラ
みずうみに還つて行ったあの人は鱗を脱いだ気丈な人魚
蘇る、思ったよりもあつさりと また会いましょう水無月の夜

七澤銀河 @Ginga_Nanasawa

アイスコールドコーラ

コンビニの隅の見慣れぬ自販機から出てきたコーラは瞬時に凍る
モームリと言へない過冷却水が過冷却だと気づかぬやうに
過冷却は身にも起きるか雨音に今朝のわたしはぼたりと凍る
炭酸を忘れてゐない凍つてもコーラはコーラわたしはわたし
どの色を推すかと迫るあぢさゐに全部と答へてず濡れてゐる
また冷える体だらうなああの店にあの自販機は今もあるのか

榎原もか @kharaneko

こんなにも静かな象牙しあわせな水浴びをしたこともあったね
でもそれが良いんじゃないのなんとなく青いハワイの味がするの
たつぷりとお湯を沸かせばさみしささみしいことはまた別の色
この先に給水塔が見えるのをお守りみたいにまだ覚えてる
ネッシーの眠る湖ぼくたちにあるのはこれからのことばかり
どこまでも水平線の伸びること 二の話はもうしないこと

ナタカ @utanataka

止まない雨

みじめみじめみじめみじめみじめの雨やまず息ができない
ずぶ濡れてはじめて気づく空だつて泣きたい気持ちなんだろうなと
あこがれた虹の向こうへ越えていく力はなくていま水溜まり
おいで、いま肩を抱くからこの傘に もつじゅうぶんに濡れたじゃないか
もしかして止まない雨に立つふたり隣に居るとあなたは言った
傘を閉じネームバンドを巻いている手つきにしばし見とれてました

natsuko @nufs722

はえろつたにみずはいるか

雨に散る花びらに憂いを寄せる密吸い鳥に選ばれた花
可哀想がられたくて泣くことを許してくれるともだが欲しい
淡色のシーグラスに憧れる海に抱かれてまあるく溶けて
インスタのインスタントな愛じゃないから海の底でうたう人魚
一緒に連れて行ってよ、ねえと叫ぶ困り顔で笑う沖のひと
願わくばこの世界が壊れぬよう海底ポストで二人暮らし

根無 ネム @singshortsong

ゆうゆうと底へ

産み落としあをき羊水ひかる夜えいえんをゆく舟をさがして
炭酸のあわの底にてまたたける幻影都市へ沈む花影
ざあざあと世界を洗ふ雨のなかちひさな傘がぼつぼつと咲く
いとしくて夜をたくさん飲みましたわたしのなかの海みたすため
誰もぬい海辺の駅に降り立てば切符の文字があをく滲んで
みついろの絵の具が溶けてゆくやうにゆらゆら沈む子の靴のいろ

灰島りんこ @hajima_rinko

汽水域

朝にはボラの昼には鯉の往く川を橋の街灯だけをたよりに
満杯の水に落としていく珈琲 静寂はいつも悲鳴のあとに
知ることのかなしさよ月光の射す海の昏さに狂いきれない
寛解の響きあかるく あかるくてとおいオアシスをまなうらに見る
降りだせばひとしく仰ぐしかなくて 曇天を縫うシユプレヒコール
梅雨晴れにローズマリーのお白い新芽は水をはじいてかおる

羽島かよ子 @kayoko_31

雨音の温度

今日の日を怠惰と名付けてわたしは雨のかなでる音楽を聴く
ゆうべから降り続けている雨のせい(世界が悲劇の色をしている)
雨音に隠れるようにあの人がそっと奏でるシヨパンのエチュード
あの人の右手の温度を知ったことまちがいになんてしたくなかった
泡ひとつシンクの縁に留まってこの熱はまだ忘れたくない
軽やかに時間を切りとる雨音にわたしたちだけが取り残されたら

薄荷。 @aieohimeco

水面まぶしく君は遠い

湖のほとりに立った背中見て君の抱える荷物を思う
心には触れられないからせめてもと風いだ水面に指を伸ばした
手のひらですくいあげても透明な冷たさだけが残るばかりで
一包化してしまおうか愛情も涙もまとめて飲み下そうか
雨に打たれ佇む姿は美しくなんてないから傘をあげよう
ゆつくりと海原進む舟のような君の寄る辺になりたかった

柊木みなも @omotemizu

水生片

ビニールの傘に群がる雨たちと共に踊ろうさよならわたし
大げさに笑ってみせた洗濯機がスーツ、ネクタイ、ワイシャツを食べ
炭酸は黒いほど良い染み渡る声もなくしたのっぺらぼうへ
歯ブラシはミントブルーを透けさせて蛇口の水へぎゅっと縫った
花丸をいとも汚く描きつつトイレは流す多分愚痴とか
追い焚きを連打に連打わかつてる熱くなるにも限界はある

非常口ドット @hiyouguchi_dot

やがて水になる

沈んでくアビスブルーの淵、いまだ 空ろな宝箱を抱きしめたまま
開け、花 水なら嫌というほどに遣った 「涙」という名の滋雨を
手を浸す冬の水 ねえ 少しだけ 近づきたいの、触れてみたい「死」
甘やかな陽が染める海 進むゆめ 捜さずについて、だれも わたしを
このころ 弔い、返すべき水際 探してわたしもそこへ還る
「I」でさえ わかりもしないこの身には 帰れる水もないのかな、愛？

はづきもこ @moshimoshi_moni

羊水

水槽を隔てて出会ってみたかった コンクリートの濡れている午後
お互いに水着を持ってないことがうれしい可愛いエイの呼吸器
暗室に赤色灯はゆるされて精製水の凜としている
きみの揺らす現象液は羊水のようにだわたしを何度も産んで
誰ひとり知らない森の葉の裏のただ一滴の水 だったから
その指は庭師の孫にふさわしくわたしの涙をそのままにした

はるかぜ @spring_bird_gr

旅情六首

〈すい〉というひびききよらか氷水とうげの茶屋の風にふかれて
どせう鍋ぬきと三合利根川の取手川風たもとへいれて
伊賀流の露天風呂から十葉の十字の花の白のきらめき
百匹の家守むらがる網戸よりもうしばらくで驟雨がきます
雷鳴の峰を越えつつ轟けば月光菩薩黄金の顔
かいぼりの川にとんでもないものを見つけてしまいい駐在所へと

笛地 静恵 @Xmcx6rhzvjEzgwq

水中花

水中花 わたしのなかにない水をそそいでほしい ひらく花びら
ひかりなどなくてもここで輝ける ゆがんだ部屋でまちがいさがし
うるおいはのどから奥へ びしゃびしゃになる内側に大粒の雨
あこがれた海はひりひり目にしみる 涙みたいな風が吹いてる
乱反射するから息ができなくて苦しむところ見て笑ってて
溺れてもいいの あなたのなかでだけ咲く色がある くすんで眠る

福山桃歌 @momoka_fukuyama

アオノコク

水色の線がトラウマかもしれないガラス片には血の痣残り
塩水が眼にしみますとのたまった私はいまだ海水浴中
海辺には砂の足跡ばかりあり死体のフリでおどけてみせた
海に降る透明なままのザワメキに都会を見てた明日にはもう
真夜中に青い瞳の星たちが迎えに来たよ囁りながら
真鍮の指輪のような色事師 太陽光が瞳に滲む

布施亜季子 @aco_kojin

逃げ水

半夏生草 記憶の小道に足踏み入れれば辿りつけない五月闇
水晶のスズランブローチ白濁し記憶も光も通さぬままに
いつだって無いものねだりのボクたちの願う明日は逃げ水のように
水色に水の色はないけれどそれぞれに思い浮かべる水の色
永遠に雨の予感のする庭で次に咲く花待つための椅子
通り雨よろこぶ朝顔つるのばしまだまだたりない濡れてささやく

古井 朔 @saku_furui

滴り落ちる

稲田の育つはずだった畦道も食ひ扶持もないヌタ打ちの後
昨晚とまったく違ふ本日の天気予報に大気が湿気る
先達と沢を見下ろすボシエットのの中の火薬が命と等価
山葵田を貪る猪に鉄筒を狙ひあはせて鳴る神の音
うたかたがくるりと回るせせらぎの淀みに沈む赤は濁つて
剣鉈で分類したら俺よりも金のかかった肉塊になる

古井久茂 @fujidom

神田川を舟でゆく

十分後発の二艘の客のため二社の社員が競って叫ぶ
エンジンと水辺のにおいにレンタルの帽子のい草のにおいが加わる
観光客となりてわれらは橋の上の観光客に手を振りかえす
非常階段でタバコをふかす二人組にとつてはいつもの景色のわれら
秘めていた本音のように橋の下をくぐる時だけ響く波音
カモメの声に振り向く 通りのどこからカレーが香ったときの感じで

本条恵 @singles_cafe

湿度の高い日

土手の上からはほとんど分からないいつかあなたと飛んだ飛び石
紫陽花を見ているうちに両の眼の奥にあかるい泉がひらく
その画家のどの風景もひたひたと湿度の高い日だ、わかるんだ
濃かったら薄めてねって素麺の晩のガラスの多い食卓
ピースフラワー黙々編んでいく夜の水を飲まないあたしも花も
真夜中の換気扇から雨の音透きとおるほどひとりの夜の

牧角うう @mkdoki

産まれるように

水たまり踏みゆくごとに園バスを待つおさなごは春に溶けゆく
雨宿りしつづける子と晴れる日をならんで待つだけ今日もまた雨
水槽を間近にながめる子の目には遙か水平線が拓ける
砕けても尖らず雲は雨になりやさしくきみにふれているだけ
挫けても負けてもいいよ雨が止むまで子に傘を傾けている
水底にタッチをしては浮かびくる子らは何度も産まれるように

三浦なつ @natsumiuraok

ミスディオール

美しいから足掻くのね はしたなく水を吸いあげてゆく切り花
舞台では誰よりうまく泣けたのあなたの前では一度も泣けず
いつまでも涙の池ができぬからドーデー鳥も不機嫌そう
湖に爪先をわずかに差し入れてあなたは月に選ばれた人
触れられた触れられたかったそれぞれの部位にミスディオール落として
唇で紅茶を揺らす 退屈なアンセムだけを愛せる夜に

深影コトハ @coroha_nikage

波を撮る

波を撮るだけの一日 意図という意図を光に浚われながら
からだごとまばたきすれば複数形を持たないみずと目が合うような
時を止める力があっても shouldn't やがてかたちの変わる嬉しさ
この温度を撮りたいのです人生はすぐには拾えない落とし物
美しい自壊はあつてそのことはいつか私のぶらんこになる
フォーカスの合わないままにまなうらに風ぐことのない波の巡礼

水上歌眠 @kamin_plz

浸潤影

東京で渴く瞳に目薬を見上げた網棚「音楽と人」
帽子ごと固めたカチモリアレンジの髪は鱈なの街を泳ぐの
焼きたてパンの香り甘い汗のにおい祈りの花の上で目醒める
はい吸ってー止めて！ ばっちり浸潤影空気は黒で水分は白
満ちてゆくオルゴールバージョン二周目をきく点滴・回復室にて
ヒスイカズラ壁が立つたびんぎ急ぐわたしはわたしを忘れないでね

南の島 @nrkmm

近況

沸かされてお湯と呼ばれてまた冷えて水に戻った、おかえりなさい
布団からはみ出した足 みずうみになりたい 船を腹に浮かべて
来る 来ない リセットされる夜が明けてリセットされる される されない
ココナツにストロー挿して飲む さほどおいしくないと思う 微笑み
塩分を補給できます泣いたあと専用ボテチ（塩味強め）
あとしまつもしもわたしが水ならば上にしみこみゆるされるのに

みはうひたき @osyoyuu

火曜日 雨

雨粒はレインドロップ言い換えて軽やかなふり踏み出した朝
長靴で来ればよかったこんな日は水溜りごと蹴散らす火曜
駅前の灯りが夜に反射して雨降る街は倍の寂しさ
玄関でぶると傘の水を切る昔飼ってたコリーを想う
タイトルは琥珀色の日々ひとりきり烏龍茶越し部屋を眺める
忘れないでも届かない君の声いま透明な湖の底

みんな @itk9x4rwh5rxnt

雨にもたれて、雨がさざめく

水たまりの奥にはこの街そっくりの青く透き通る街が揺らめく
先客の蛙がまぶた閉ぢしころ眠りしころに雨だれが落つ
打つそばから文字滲みゆく内部まで雨の沁みたるノートパソコン
かすかなる雨にもたれて君を待つ君の気配に雨がさざめく
夕立で飛び込めるカフェタ立を集めしやうに泡立つソーダ
かき氷が溶けて真つ赤な水面となりゆくまでのあなたの不在

村田一広 @muccci2022

私傷病休暇

だましだまし出勤をしてきたことのめつきを剥がしてゆくやうに雨
少しだけ外を眺める干してゐた洗濯物とは目を合はさずに
まひるまに遮光カーテン閉ぢたれば深海魚のゐる水槽になる
不知火の果汁を搾りだすやうに風呂場で髪をみじかく刈れり
まくられた袖からのぞく両ひじの黒ずみのごとわたしが悪い
目をつむる また目をつむる 両音がちひさなメトロノームになるまで

宮下一志 @llama_miyashita

水の都に雨が降る 四

小魚が水面に跳ねるはつなつの水の都の胎動の音
水無月の空気に重くなる小袖じんわり濡れる松風地蔵
ひと雨が去って瘴気を失った風が柳をさらさら揺らす
雨粒の波紋いつしか消えていてもすこし相合傘でいましょう
詩仙の名の酒にほろ酔い散歩道 兎守稲荷と白蛇権現
夕焼けが湖面を朱に染めてゆくこの世はジゴクではありませんぬ

宮嶋いづ @miyazima_izq

したたる

雨の名のどわかひとつを降りながらただ忘れられてしまひたかつた
クレソンをばつきり齧る身のうちの明るいほうへ水は流れて
きみの手に洗はれてゐる心地して石鹸水に指紋が消える
遠雷をこはがらないでほんたうの雨は書物の中にだけ降る
錆びてゆく体に雨が冷たくて百合の名前の都市がうれしい
もう一度会ひたくなくて水だけで孕んでしまふ花園にゐる

山野ゆかり @natsurani_clara

水深×○×○

ここが沼冷たいけれど生温い汚れたいのよ喉の奥まで
終電の残り香の中ほろ酔いで霧雨纏い足取りふわり
優しさとはコンビニ傘を奢られる相合傘の許可は下りない
呼び出され浮かれおめかしただけれど市民プールで何故かバタ足
シャワー浴びフルメイクしたその後は貴方の髪を乾かす時間
ここは沼一寸先も見えなくて目線足跡おぼつかず2つ

由香 @it_yukashi_mahy

じゅんかん

あまどいを落ちる雫がパークスできみの歌だけうたってる梅雨
重力に縫い付けられた球体は海と呼ばれて形をわすれ
わたしまだ水になれないきみという水素がない そらを見上げる
水溜りが消えてたから きみはまた帰ってくるね雨傘の上
雨になるひとたちのこと 残された名前のことを忘れない 海
麦茶にも前世はあるか 来世では君の形で会いにきてよね

雪村詩葉 @favotankasyoh

溺れる

わかれぎわもらった白いハンカチのこんななんぼあってもいいですからね
そんなことばかり考えていた詩の棘がささったままの人差し指の
パッチワークの柄が合わないにべもなくすべて拒否する春の布地よ
一度覚えたなら忘れることはない溺れるみたいにあなたみたいに
なにもかもなげだしたいほどなげやりでどこに転がってゆくのチョコボール
虫は泣いているわけじゃないよと言いなからあなたはすべての窓を閉めたり

ヨシダジャック @jacksbeans2


サイフォン

頭蓋骨をお湯で温めネガティブをサイフォン式で抽出していく
安っぽい炭酸胸を支配する汗ばむ夏の過ちになる
炭酸がひっくり返った夕立が帰路の車道を濡らして逃げた
適当な相槌を打つ彼女らのフラベチーノのカップの雫
心臓の鼓動のようにぼたぼたとトイレの蛇口の首絞めるとき
天井の直線に合わせて手を回す水掻き分けて限りなく舟

渡部敦則 @nor_anzu_1



mizutsuki 14
<http://kohagiuta.com/design/mizu14/>



2026年初夏
「水」がテーマのアンソロジー
みずつき14

発行：2026.06.08
短歌：ご寄稿くださった皆様
企画・編集・装丁：千原こはぎ
<http://kohagiuta.com/>